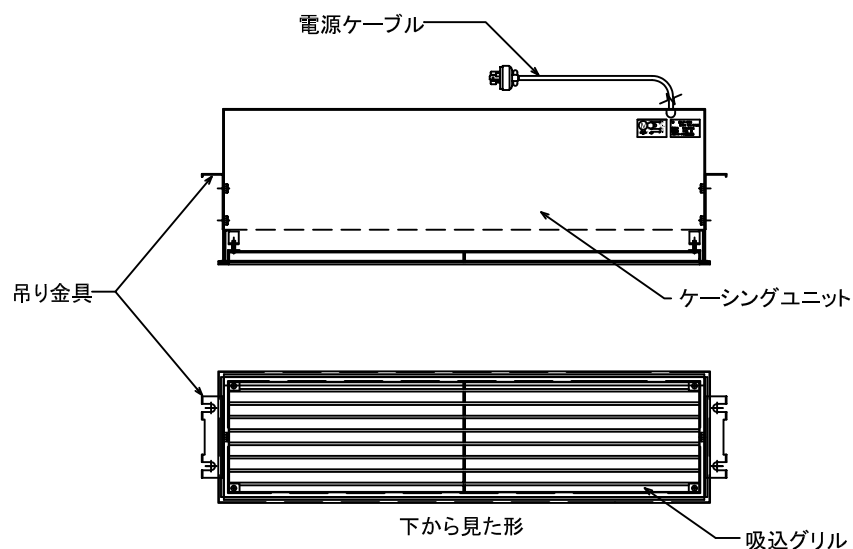


取扱説明書

[取付説明書]

ロングファン

各部の名称



型 式	電 源
LF-RC1-LB/RC-1-HB	単相100V

このたびは、ロングファンをご採用していただきまことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に末永くご使用ください。
記載にない設置やご使用方法で故障が生じた場合は保証ができかねますのでご注意ください。

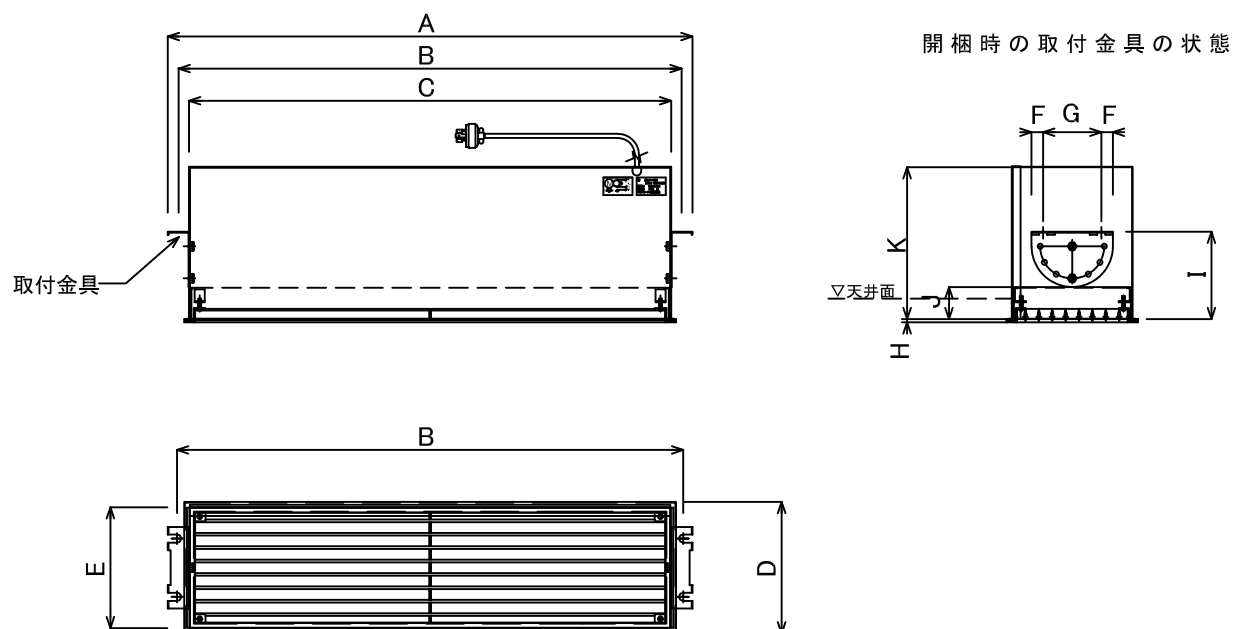
目 次

各部の名称	1
安全上のご注意	2
外形寸法／取付方法	3
取付上のご注意	4
電源接続の仕方	5
運転状態の確認	5
角度可変(据付け後)	5
お手入れの仕方	6
アフターサービス	6

人への危害や財産の損害を防ぎ、安全にご使用いただくための説明です。

 警告 死亡や重傷を負うおそれがある内容		 注意 軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容	
 接触禁止	吹き出し口から手を入れない 運転中に駆動部に手やモノを入れない けがのおそれがあります	 禁止	本体にぶらさがらない 物を掛けたりして異常な力を加えない 落下によりけがのおそれがあります
	電源が入ったままで運転を停止しているとき 製品に絶対に触れない 突然運転し、けがや感電のおそれがあります		角度調整のとき、中央回転ナットをはずさない 製品に絶対に触れない 落下によりけがのおそれがあります
 分解禁止	分解、改造は絶対にしない 火災や感電・けがの原因となります 修理は販売店かご相談窓口へお問い合わせください	 水場使用禁止	本体に異常な音や振動が発生した場合は 使用しない 部品の落下によりけがのおそれがあります
 水ぬれ禁止	水につけたり、かけたりしない ショートや感電のおそれがあります		プールや浴室など湿気の多い場所(常温において相対湿度85%以上では使用しない 火災や感電の原因となります
 回転物注意	可動部には触らない けがのおそれがあります	 指示に従う	本体の設置は必ず屋内に設置する 雨水など水がかかると火災や感電の原因となります
 アース確認	アースを確実に取付け専用の漏電遮断器を設置する 故障や漏電のときに感電するおそれがあります		本体の設置は振動のない強度のあるところに 取り付ける 落下によりけがをするおそれがあります
 禁止	同じ施設で火災が発生したときは、直ちに 運転を停止する 延焼を促進することがあります		本体は指定の方法で確実に取り付ける また各部品は確実に取り付ける 落下によりけがをするおそれがあります
	燃焼機器に風が直接あたるところでは 使わない 火が消え不完全燃焼により、CO中毒をおこすことがあります		電気工事は必ず本体の仕様に適合した 供給電源に接続する 漏電、感電、火災のおそれがあります
	工場、厨房など油煙の発生するところや 爆発性の粉塵やガスが発生するところでは 使わない 爆発や火災の原因となります		電気工事は必ず有資格者である電気工士が 内線規程や電気設備技術基準に従って、 確実にこなす 誤った電気工事は漏電、感電、火災のおそれがあります
	風の吹出口や吸込口付近に物を貼ついたり 置いたりしない 物が飛ばされたり、吸い込まれたりしてけがの原因となります		設置工事、清掃作業は必ず専門の業者に 依頼をする けがをするおそれがあります
 指示に従う	定格電圧・定格周波数・使用温湿度範囲で 使用する 定格電圧・定格周波数以外で使用する と火災や感電のおそれがあります		施工時や点検時には必ず手袋やヘルメット など保護具を着用する けがをするおそれがあります
	お手入れの際は必ず分電盤のブレーカを切る 停電復帰後、急に羽が回りけがをするおそれがあります		清掃するときには必ず手袋など保護具を 着用する 本体の切り口、突起物などでぶけがをするおそれがあります
	停電のときは、必ず電源を切る 停電復帰後、急にランナーが回転し事故が起きるおそれ があります		吸込みグリルや羽根の汚れがひどい場合は 清掃を依頼する 本体の切り口、突起物などでぶけがをするおそれがあります
	標準設置は高所に取り付ける 低いところに設置する場合はオプションの吹出口グリルの 設置や人が触れない安全対策を十分におこなってください		清掃、点検時に本体上に物を置いたり、内部 に物を残さない 部品や残存物の落下によりけがのおそれがあります
		長時間ご使用にならない場合は、必ず分電盤 のブレーカを切る 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となります	

外形寸法図



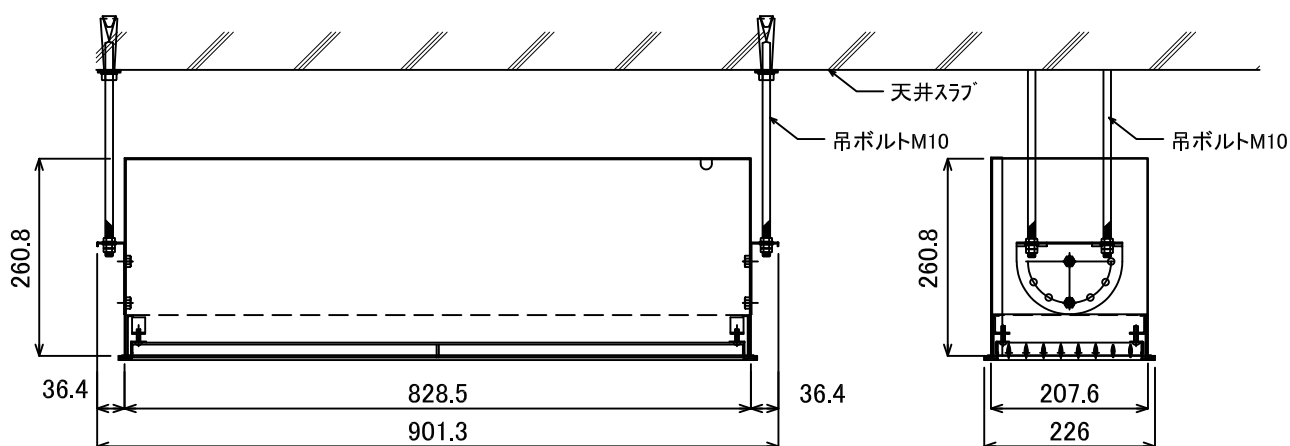
寸法表

単位(mm)

型 式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
LF-RC1LB/RC1HB	901.3	869.3	828.5	226	207.6	20	100	5.5	150	55	260.8

取付方法・取付条件

1. 吊ボルトの設置

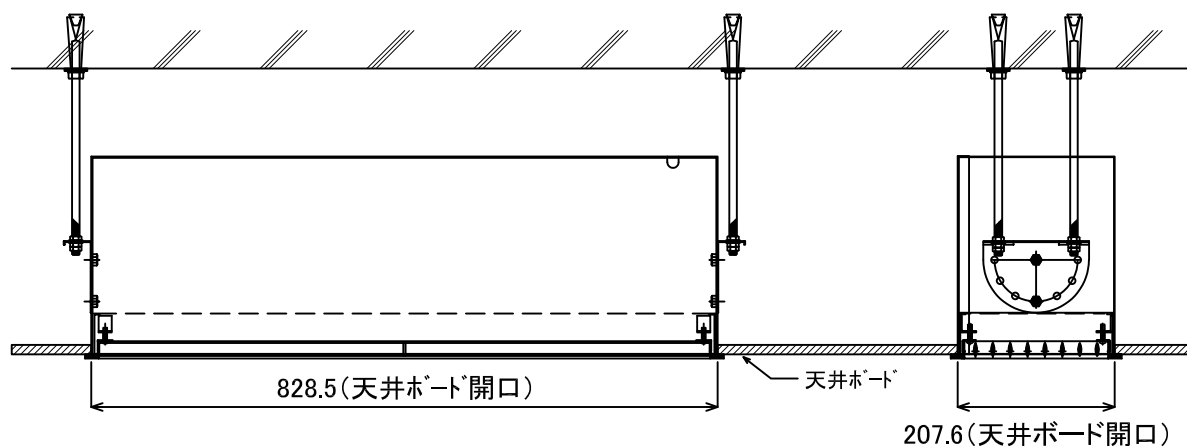


2. ファンユニットの吊り込み

- ①吊ボルトのピッチを確認し、吊ボルトにフランジ付Mナット(M10)を通してください。
- ②ユニット本体(ユニットカバー+ファン)を吊り込み、ユニットカバーが真っ直ぐ並ぶように調整し座金、ダブルナットで固定します。
- ・水準器で長辺方向、短辺方向の水平度を確認してください。

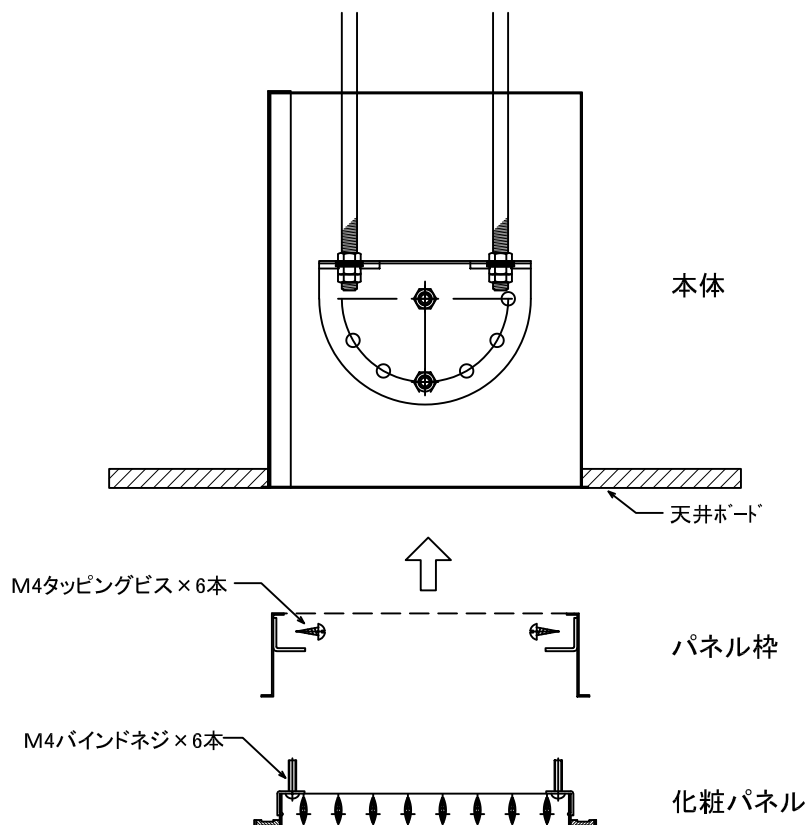
3. 天井ボード施工

- ・天井ボードの下面が本体下端の高さを基準として、上下5mm以内となるように取り付けてください。
- ・天井ボードの開口穴は1,520X525となります。



4. 化粧パネル取付

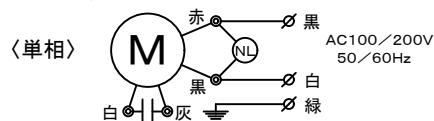
- ・本体へパネル枠を取り付けてください。(M4タッピングビス×6本)
- ・本体へ化粧パネルを取り付けて下さい。(M4バインドネジ×6本)



電源接続のしかた

本体のモーター側よりコード(1.5m)＋アース付平行プラグが標準付属しています
付属プラグに適合した一次側電源コンセントをご用意いただき、接続してください

電気配線図



配線に間違いがないこと、ファン内部に異物がないことを確認した後に、電源を投入してください。

運転状態の確認

本体の据付けが確実で振動や異音発生がないか、正常な運転かどうかを確認してください。

不具合がありましたら必ず直してください。

運転ランプが点灯していることを確認してください。

ファンの吹出口から風の流れが感じられるのを確認してください。

運転音(風切り音)が聞こえることを確認してください。



運転中のファンに手を入れますと、大怪我になる危険性があります、十分注意してください。
確認した後に、電源を投入してください。

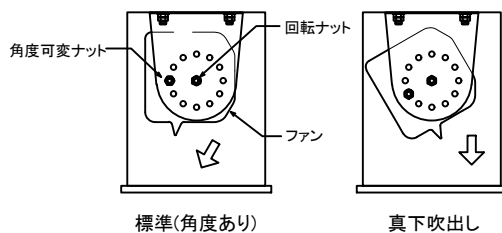


試運転時には、ドライバーや道具が回転部分にないことを確認してから行ってください。
道具等が残っていると電源投入時に周辺に飛び、周囲の人、物に危害を与えることがあります。
また、破損したファンが飛び散ることがあります。

風吹出方向可変(据付け後)

ファンユニット本体据付け後に風吹出方向を可変する場合は、ユニット内のファン角度を調整ください。

左右2か所の金具にある回転ナットを緩め、角度可変ナットを外し調整のうえ角度可変ナットを
回転ナットとともに締め付けます。



据付け後に吹出方向を可変する場合は、
高所作業の安全対策をし十分注意して行ってください。



回転ナットは本体が回転する程度に緩め、決して外さないでください。
またナットを外したり締めるときは必ずファン本体を下から
手を添えて支えるようにしてください。

取付場所についてお願い

取付場所がよくない環境の場合、故障の原因になります。以下のような場所への据付けは避けてください。

- ・ 0℃以下または、40℃以上になる場所
- ・ 屋外や軒先など雨水がかかるおそれのある場所
- ・ 塩害地域、寒冷地域や冷蔵庫、冷凍庫など結氷するおそれのある場所
- ・ 硫化ガスなど酸性またはアルカリ性ガスの発生、流入する場所
- ・ 可燃性ガスの発生、流入、滞留のある、またはそのおそれのある場所
- ・ 油煙、蒸気、煤塵、粉塵、砂塵、綿埃など多く発生する場所

お手入れのしかた

本体やグリルは中性洗剤に浸した布でちり・ほこり、汚れをはらう程度に除いたあとから乾き拭きし水分を拭きとってください。

水をかけたり、ブラシでの清掃は厳禁です。お手入れは必ず本体を停止して行ってください。

お手入れの方法が不明の場合は販売店または発売元へお問い合わせください。



電源部分に水を掛けたり、濡れた手でさわらないでください。

また、天井から漏水、雨漏り等がある場合は、運転を中止し、水分を除去してください。

感電したり、電源遮断の原因となります。特に、引火物のある場所では、火災の原因にもなります。

日常点検

ファンローターは回転しているか、風は出ているか、運転ランプは点灯しているか、異常音・振動はないか衝突などゆがみや据付け不良など外観に異常はないかなど目視または運転音で確認してください。

また、吸込み口に綿ほこりやビニールの付着がある場合は取り除いてください。

お手入れの方法が不明の場合は販売店または発売元へお問い合わせください。

定期清掃・点検

内蔵ファンなどにちり・ほこりが異常に堆積した場合、ファン回転のアンバランスにより故障につながる可能性があります。

定期清掃・点検をお奨めします。販売店または発売元にお問い合わせください。



吊下げ部分、連結部分、電源部分のネジの締め付けに緩みがあると運転時に異常な振動が発生し製品の落下や破損が発生し、けがや感電をすることがあります。



グループ運転する仕様に設定されているときは、必ず作業中や清掃中のロングファンがないことを確認後、起動するようにしてください。

作業中や清掃中のロングファンの内部に手や道具を入れたまま起動すると大怪我や、故障の原因となります。

過熱保護装置が作動した場合の処置

モーターには温度の上がりすぎを防止するために過熱保護装置(自動復帰型サーマルプロテクター)を内蔵しています。周囲温度が異常に高い状態でもこの装置が作動してファンは回転できません。温度が下がれば自動で復帰しますが、温度が下がっても復帰しない場合は販売店または発売元にお問い合わせください。

アフターサービスについて

電源投入後もファンが運転しない、運転しているが騒音や振動が通常より大きい、何かに衝突し変形しているなどロングファンに異常がみられた場合は、直ちに電源を停止して、修理依頼をしてください。

修理依頼先が不明なときは右記にご連絡ください

発売元

ニッシントーア・岩尾株式会社

東京都中央区日本橋人形町2-30-8

TEL.03-3665-8980 FAX.03-3665-8970

<http://www.nisshintoiwao.co.jp/materials/air.html>